

会議録

会議名	第2回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会	
開催日時	令和7年12月16日（火）午前10時～午後0時	
開催場所	宍粟市役所本庁舎 4階会議室	
出席委員	林 昌彦、石原 政司、谷笛 摩弥、浪花 正典、成 将希、 山本 めぐみ、田中 由理、中野 志郎、大垣 陽子、 中本 弘美、小林 由美	
欠席委員	岡本 一也、西川 彩児、西山 大作、井上 裕司	
事務局 及び説明員	(地域創生課) 久内課長、上月副課長、岸根係長、衣笠係長、 中瀬主査	
傍聴人数	0人	
会議の区分	公開	(非公開の理由) なし
協議事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次総合計画素案策定の流れについて【資料①及び②】 ・序論・基本構想について【資料③及び④】 ・その他 	
会議経過及び 会議資料	別紙のとおり	
会議録確認者	委員長 林 昌彦 (令和7年12月24日確認)	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員長	<p>■開会</p> <p>■委員長あいさつ</p>
事務局	<p>■第3次総合計画素案策定の流れについて【資料①及び②】 (説明)</p>
委員長	今の説明に関して、ご意見、ご質問があるか。
全委員	(特になし)
委員長	計画策定に係る流れとスケジュールに関するところが主だったと思う。各委員でご確認をお願いする。
事務局	<p>■序論・基本構想について【資料③、④及び参考資料】 (説明)</p>
委員	説明を受けたが、一体的にどのようになっていくのかが分かりづらい。金融関係に所属しているため、産業関連の付き合いが長いが、産業視点で考えたときにも未来を描きづらい。基本構想にあたる部分は、どうしても概念的になると理解しているが、もう少し具体的に描けると良いと思った。
委員	<p>基本構想はあまり具体的に書けないと理解したが、たくさん文章が書かれているわりには、ふわっとしており、もう少し具体的に書いても良いところがあるのではないか。例えば21ページの「まちづくりの重要視点」の（4）効率的で持続可能な行財政の推進で、税収が減る、社会保障関連費が増える背景があり、そのため業務の効率化と行政改革に取り組んでいくとあるが、市役所の中だけで効率化を図ったからといって、半分に減るわけではないので、効率化だけではなく、行政が財源を獲得するような手段などの記載があっても良いのではないかと考える。</p> <p>（3）森林を活用したまちの創造についても、活用する機会を提供する、未来に引き継ぐだけではなく、現行計画だったらしくレジットのことが書いてあったが、それも一度発行してしまえばなくなってしまうので、新たな財源を確保するような、もう少し具体的なことを計画の中に記載しても良いと思った。</p> <p>「風景ビジョン」について、田んぼの管理で言うと、高齢者が子どもや孫たちに米を食べさせてやりたいという気持ちでなんとか続けている。米は買った方が安いし効率的だが、その気持ちだけで成り立っている状況で、気持ちが萎えてしまった時に、風景が一気に失われていくのではないかとか、田んぼを一手に引き受けってくれている人がいなくなるといった懸念が</p>

	ある。このようなところを、もう少し具体的に記載した計画になればと思う。
委員	次期計画はウェルビーイングを盛り込むにあたり、他者を思いやり誰もが幸せを実感できるまちを創るという思いと、全ての人々が幸せを感じるというところで、1人でも10人でも100人でも同じことだと思う。高齢者、特に障がいのある方や子育て世帯、生活困窮の方など、多様な立場の方にも目を向け、財政や人材不足などの課題を抱えている中で10年の計画ができれば良い。
委員	アンケートの結果で、市民の住みやすさが55.5%と、結構高い数値だと思った。その一方で、本市は4町あって、山崎は不自由ないが、千種・波賀・一宮の北部は冬場の雪かきをしてから通勤したり、交通の便も大きく違ったりしている。今回2,300人にアンケートをしているが、各地区に対しての配布割合は妥当なものとなっているのか。4町で比べてみるとどのような結果が出るのか気になる。
	農業部門関連の話で、雇用の募集をかけると応募は多く、ダブルワークの方も多くなってきている。副業的にしたい方もいるし、普段は人と関わる仕事をしている方が農業をすることで精神的な安定が得られるなど、農業はメンタル面でも良い効果があると感じている。企業の方に研修の一環で農業に関わってもらい、草刈りや畠仕事をする中で、普段は仕事が忙しい方とも繋がりが持てると良いと考える。
	もう1つ、引きこもりの方が結構いるのではないかと感じている。中学校までは学校のサポートでカウンセリングも受けられるが、中学を卒業した後は、行政で支援もされているが、病院にも通院されていない方などを把握できているのか気がかり。子どもだけでなく、大人もサポートは必要だと考える。また、支えている家族の方もかなり負担が大きいと感じるので、目に見えないところに配慮できると良いと思う。
委員	風景ビジョンについて、今の大きな問題として、人口減少と財政難があり、風景ビジョンを推進することで、人口減少対策や経済効果をもたらしていくようにしていくべきである。最近、山や道沿いにメガソーラーが多くあり、やはり風景が損なわれていると感じる。あと空き地が目立つので、風景ビジョンとしての一環で空き地を活用し、宍粟市に適した作物の栽培ができるような、素人でもできる農業を紹介するなどの取組は良いかもしれない。
委員	町屋カフェでアルバイトをしながら、有機野菜を作っているおじいちゃんを手伝っている。そこで市外の方で畠をやってみたい人を繋げたり、一緒にできるイベントを企画したり、移住目的の方と繋がっていく活動をしている。移住すると考えても移住先がなかなか見つからず、空き家バンクで探しても割と金額が高い現状や、賃貸で探している人が多い状況もある。農地付きの空き家に引っ越してきても都会の人はすぐに農地を使えないの

	<p>で、何日間か農業を手伝う経験をし、次に農地を自分で借りるまでのステップに繋げるようなことをできればと思っている。</p> <p>子育てについて、2～3人の子どもを抱えているお母さんが多く、そこでもう1人産みたいという気持ちが育つかどうかを考えたときに、このまちで働きながら子育てとなると、キャパオーバーになってしまうという話もよく聞く。もう1人産みたい気持ちを支えられる、応援できるまちづくりをしたいと思う。</p> <p>例えば、ある自治体には公園を見渡せる図書館があって、図書館の窓から子どもを見渡しながらお茶が飲めたり、会議室があったりという複合的な施設がある。そこに遊びに行って、子育てしているお母さんたちやその風景を見るだけでも、そのまちがどれだけ子育てに本気かを感じられる気がした。宍粟市に戻ってきて、地元の公園のボロボロの遊具をみて少し寂しい気持ちになった。夏は暑すぎるため、いまの宍粟市には遊ばせる場所がないと聞く。4町それぞれに、雨でも灼熱の中でも安心して子ども遊べる場所があると良い。</p>
委員	<p>特色のあるまちづくりや宍粟市の地域の担い手の育成、孤立化や育児など、行政がどういうことをしてくれているのかを一生懸命イメージするが、文章を読んでいるだけでは分からぬ。活力も維持できないから、風景ビジョンでいう風景もどんどん衰退していっていると感じる。畠を所有している方が亡くなるとすぐに荒れていく点からも、そういう住民がいることが宍粟市にとって大事ではあるが、何を大切にすべきかが伝えきれていないと思った。</p> <p>行政に頼りすぎるのは良くない。自分たちもどうということを頑張れば子どもたちが帰ってくるのか想像できる計画になると良い。郷土愛を育む教育や地域全体で子どもを支えるなど、すごく良いことは書いているが、子どもたちが自然を当たり前だと思わず、素晴らしい環境で育つてることを伝えることが大切で、そのために色々な分野でできる具体的なことを持ち寄れば良いと思う。</p>
委員	<p>同じ一宮でも南部と北部では天気予報も変わるぐらい環境に差がある。自治会ではここ10年で20戸程度減少している。小学生の数は5人しかおらず、未就学児も5人ぐらいしかいない。小中一貫校にもなっているが、まだ減り続けると思う。働く世代の若い方もおらず、いる方はほとんどが自営の素麺屋さん。風景については水田の耕作放棄地は増えている。トラクターで鋤けば綺麗な風景だが、今はただの荒地で、2・3年も経つと復旧は難しくなり寂しい思いをしている。中山間地では法面ばかりで農地の大規模化などできない。大変な思いをしながら小さな田んぼを守っているが、10年後は自信がなく、跡取りもいない。</p> <p>自治会の中で名水の汲み場があり、県内外から月に500～600人は来られる。観光資源がないので売上にはつながらないが、アンケートをしたところ「まほろばの湯」を利用したことがある人は9割にのぼり、そこそこ経済効果があると感じている。</p>

委員	<p>宍粟と同じように、佐用でも計画に関わっている。どちらも共通して人口が減る中で幸福度をどう上げるかというところに主眼を置いている。佐用では小中学生でもわかるように、観光パンフのような薄いものを作っている。10年後に大人になる子どもたちのための計画にしなければならないと感じるが、今日示されている計画には若い子の意見が組み込まれていないのではないか。転出によって人口が減少しているので、都会で働かれている市の出身者にも聞いても良い。中学校や高校生がどのようなまちの姿を望むかを聞くのも良い。</p> <p>田園風景で良いところがあるが、10年後は維持できているかがわからない状況。やはりマネタイズの考え方、しっかり風景とお金とを繋げて、ビジネスとして成り立たすことが重要。</p>
委員	<p>分かりづらいとの意見が多いが、行政の立場からすると、非常に分かりやすく読みやすいという印象を持った。行政がつくる文書は、普通はもっと分かりづらい。個別のことを入れてほしいという意見に対しては、今後の個別計画で整理されるという話であり、基本計画はこれからの議論となると思うが、今回は包括的なビジョンになっているのは説明があった通りだと思う。ただし、21ページの（4）効率的で持続的な行財政の推進は、もう少し膨らませても良いのではと感じた。</p> <p>宍粟市の課題で地域差の発言もあったが、11ページの重要度と満足度の分析では、「地域医療の充実」の満足度が非常に低い。ドクターの数が減っている現状の中で、地域別の診療所数の推移があるならデータを提供いただきたい。</p> <p>5ページの『4.社会情勢』の5行目に「少子化」という記載があるが、タイトルが「深刻な人口減少と少子高齢化」となっているので、「少子高齢化」とすべきでは。また、「こどもまんなか社会」という記載があるが、唐突感があるので説明があっても良いのではないか。</p> <p>17ページの「7. 誰もが活躍できる共創のまち」に「女性の活躍」という大きなキーワードがあるが、女性議員の割合は県下で2番目となっており、非常に活躍されている。加えて、高齢化が進む中、高齢者の活躍がないとまちは立ちいかなくなるので、女性・高齢者とされたらどうか。その場合、後ほど出てくる政策には高齢者に特化した記載が少ないので、工夫も必要かと思った。</p>
委員長	<p>他の方の意見を聞いて新たに考えられたこともあると思うので、もう1回ずつ、ご意見があれば伺いたい。</p>
委員	<p>子どもが少なくなっていることに驚いた。宍粟市の未来を考えると、子どもの意見として、5年後どうなっているとか、10年後どこに住んでいるかなどを聞くことはすごく大切なことだと思った。家庭内で話題にする人もあると思うが、学校の道徳教育などでも、そんな議論をしていただければと思った。</p>

委員	<p>子どもは今の生活が当たり前、森林があることが当たり前と思っている中で、子どもからはしっかりした意見が出ないかもしれないが、親の言葉の影響力は大きく、家庭での会話が大事だと思う。</p> <p>別の視点の話としては、親世代は北部に住み、子世代は山崎にいるといった家族の例でも、やはり子は親の生活を心配している。高齢者の生活を安定させることができが子の幸福度を上げることに繋がり、また、その親の姿を見て実家に戻ってみようという選択肢にも繋がると考える。先日、波賀元気づくりネットワークで頑張っておられる方の孫が、小学校の学習発表会で森林鉄道の発表をされているのを見て繋がりを感じた。若い方や子育て世代が重視されがちだが、高齢の方を大切にしていくのも大事だと思った。</p>
委員	<p>23 ページの計画の体系、基本目標 3 について、やはり心身の健康づくりも大切だが、宍粟市は既に高齢化率が 40% を超えているので、介護予防によって健康寿命も上がり、医療や介護の費用を抑制できると思った。</p> <p>基本目標 4 について、「多様な個性が活躍する時代に対応したまち」の方針で、共創によるまちの発展として、それぞれの市民の人が主体的に活躍することで魅力を高めていくと記載がある一方で、健全かつ効率的な行財政基盤の確保の項目が一緒になっていることが、少し違和感を抱いた。</p>
委員	<p>風景ビジョンは人の想いがないと長続きしないと思うので、親がしっかりと子どもに伝えられる仕組みが必要。単に子どもといっても、小中学生や、親から見れば家庭をもつ世代の子どももいるので一括りにするではなく、それぞれの想いがあるということを伝える機会づくりについて風景ビジョンに盛り込めれば良いと思った。</p>
委員	<p>人口や世帯が減ってきており生活関連の事業が成り立たなくなり、高齢化と合わせ廃業になり、さらに人口が減少していくという連鎖が生じる危機感がある。農業の問題も含めて、総合的な計画ではあるが、比重をどこに置くかを考えることも必要ではないか。</p>
委員	<p>人口減少は日本全体の止められない課題であり、関係人口をどう獲得するかがカギ。移住定住が大きいポイントになる中で、田舎では難しいかもしれないが、例えば移住者の事業継承などができるようになれば良いと思う。</p>
委員	<p>22 ページの基本目標 2 に「機能的な交通ネットワーク」とあるが、千種においては路線バスの減便や廃線を背景にコミュニティバス（ええとこバス）が試験運用しており、既にしんどい現状なのに 10 年後どうするのかは疑問であり、机上の空論にならないようにしてほしい。</p>
委員	<p>生産森林組合のメンバーはほとんどが高齢者で、山林調査に行くことも大変。伐採するとなるとプロの仕事となり、森林組合や民間事業者に頼むこととなる。50 年前の契約書を見ながらとなるが、代替わりもしております</p>

	所が特定できないなど、非常に大変という現状がある。
委員	23 ページの基本目標3「子育てを支え誰もが明るく暮らせるまち」とあるが、地域で子育てを支えるのは誰かを具体的に見せられると良い。住んで良かったとまちだと、学校で学ぶことは大事だが、家庭で教えることはもっと大事になってきている。家庭を潤すには、やはり地域でみんなが支え合うことが必要であり、昔であれば地域の餅つき大会や田植えがあり、大変だったと思うが、「大変なこと」を「大切なこと」としてお互い伝え合えれば、もっと支えられる側と支える側が良い関係を築けると思う。大変なことを楽しく見せる、大切だと大人が教えることが大事。
委員 (欠席のため 事務局代読)	<p>宍粟市は、地域の成り立ちとして、労働者が集まって形成されたまちではなく、地域特性を生かした農業・林業を中心として人々が世代を承継してきたまちである。</p> <p>そういったことから、地域的な繋がりや愛着を大切にする「幸福度の高いまち」を宍粟市の目標とすることは理にかなっている。いま大切なことは、現在の環境・社会情勢の中で、地域のために行動する意識をもつ人を育てていくことだと考え、これも「まちづくりはひとつづくり」といったところに表されている通りだと思う。宍粟市で展開されている「木育」を通じて、子どもたちに地域の文化や特性を知ってもらうとともに、将来は地域のために働く意識を持つてもらえる意識を育む教育を進められたいと考える。</p> <p>社会人の方に対しては、定年で終わりといった昭和時代の概念は見直し、かつて農林業が盛んだった地域ということに着目して、そういった分野で「生涯働くまちづくり」をめざしてはどうか。地域の企業・事業者の協力も必要だが、可能な限り生涯働く意識をもつ人を育てることが、心身ともに健康で、また地域社会との繋がりを持つことで達成される幸福感に結び付くと思う。</p>
事務局	<p>序論・基本構想、基本計画、さらに実施計画や個別計画のそれぞれの役割の中で、具体的に書くことがなかなか難しい部分もある。ただ、読んでいただいた方に伝わる計画としていくことを念頭に検討を進めていきたい。</p> <p>中高生にアンケートは昨年度実施しているので、序論にて追記できればと思う。中高生アンケートの「若者が住み続けたり、戻ってくるために必要なこと」として、1番に「電車や路線バスの交通が便利になること」、次いで「飲食店・遊べる場所など若い人が集まれる場所が増えること」、「働きたいと思える企業があること」という意見がある。電車や大型商業施設などはまちづくりとして難しい面もあるが、働く場所についてはその通りと考えるので、目標1として整理を検討していく。他にも調査報告書をホームページに掲載しているのでご覧いただきたい。</p> <p>「機能的な交通ネットワーク」については、路線バスは利用者が少ないと減便・廃線になる。そうした中でも交通空白地を生じさせないよう進め</p>

	<p>いく必要があり、地域主導でのコミュニティバスを応援するなど、多様な手段による広い意味での交通ネットワークとご理解いただきたい。</p> <p>地域のひきこもり等についても、重層的支援体制については行政だけでは難しいと認識している。地域の目、住民同士での関わりというところで、福祉を支える地域づくりという方針を整理している。次回以降の会議で具体的な方向性についてもご意見いただきたい。</p> <p>佐用でされている子ども向けまちづくりパンフレットについては、宍粟市においても、小中学生にもわかりやすい概要版を作ることを考えている。</p>
委員長	<p>第2回委員会で出された意見のフィードバックは、先ほどの回答も含めてお願いしたい。</p>
事務局	<p>■その他 (報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回委員会について <p>【開催日】1月22日(木) 10:00～</p> <p>【議題】基本計画中、基本方針1～3</p> ・第4回以降の委員会開催に係る日程調整について
副委員長	<p>■閉会</p> <p>各分野の方から様々なご意見が出て非常に勉強になった。多角的に検討していくことが必要だと強く感じた。事務局の方には申し訳ないが、可能な限り盛り込み、良いものに仕上げてもらえたと思う。次回は基本計画がテーマになるが、今日の各分野個別の意見も踏まえた検討が出来れば良いと思う。</p>